

・・・+-**・・・**+++++・・・++++---・・・+-*****

子ども版防衛白書は、全国約 2400 の小学校に約 6100 冊が送付



E メール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007
FAX03-3261-5453

2025年8月21日(木)

NO. 1606号

本号3頁

参政党88議員、集団参拝 政治的デモンストレーション

参政党は終戦記念日の15日、神谷宗幣代表はじめ全国会議員18人と地方議員70人で東京・九段北の靖国神社に参拝しました。特定の党派がこれだけの規模で靖国神社を集団参拝したのは前代未聞です。

参拝後、神谷氏は記者団から参拝の意味合いを問われ、終戦80年の節目と「参議院選挙で大きな期待を皆さんからいただいた」ことを挙げ、全国会議員に参拝を呼び掛けたと明らかにしました。首相の参拝について「総理も参拝していただきたい」と主張。参拝に対する近隣諸国からの批判を問う質問には回答を避けました。

神谷氏が参拝を終え玄関から現れると、日の丸の旗など日本軍を連想させるグッズを身につけた支持者から「神谷さん、がんばれ」「自民党を倒してくれ」などの声がとび、大きな拍手喝采が起きました。その後、神谷氏は一般の参拝者らが並ぶ拝殿の前に移動。少なくとも50人以上の参政党の国会・地方議員と一堂に並び、写真撮影しました。社内で参政党の“集会”が開かれる異様な状況となりました。

どうでしょうか。みたまを慰め、その事績を永く後世に伝えることを目的に創建された神社で、政治的パフォーマンス・デモンストレーションのため利用するのではいかがなものでしょうか。戦争で亡くなったみたまを「静かなお祈り」すべきではないでしょうか。

小池書記局長 参政党議員らの靖国参拝批判

侵略戦争と植民地支配まるごと肯定、歴史逆行と歴史修正主義許されない。

共産党の小池晃書記局長は15日、東京都内で、記者団から参政党や日本保守党の国会議員や地方議員が大挙して靖国神社を参拝したことについて問われ、「党として、丸ごと戦前への歴史逆行と歴史修正主義の立場に立つことを宣言する政治的なデモンストレーションだ」「過去の侵略戦争を美化、肯定する行動は、厳しく批判されなければならない」と強調しました。

小池氏は同日の終戦の日80周年の街頭演説で、「侵略戦争、植民地支配への無反省と、外国人に対する根拠なき差別はメダルの裏表だ。戦前も、外国人に向けられた差別の刃（やいば）が、やがて日本国民に向けられ、戦争に反対する人を『非国民』と弾圧し、侵略戦争と植民地支配に道を開いた」と指摘。「日本共産党はこうした歴史の教訓に学び、差別と分断に断固として反対を貫く。多様性を大切にする社会を願うみなさんと連帯し、言論の力で極右・排外主義を克服する」と決意を表明しました。

人質の解放と戦争終結につながる交渉を求め、 イスラエル全土で100万人

イスラエルでは17日、パレスチナ人自治区ガザ全域の制圧を計画するネタニヤフ首相に対する抗議し、残る人質の解放と戦争終結につながる交渉を求める全国行動が、同国各地で取り込まれました。

「イスラエル停止の日」と名付けられたこの全国行動では、集会やデモ、ストライキ、座り込み、駅頭宣伝、道路封鎖など多様な行動が全国350か所以上で行われ、主催者の人質・行方不明家族会によると、100万人以上が参加しました。

イスラエル政府は8日の治安閣議で自治区ガザ市制圧計画を承認。ガザではイスラエルによる封鎖で食料不足が深刻化し、本格的な地上侵攻に踏み切ればガザ市民だけでなく人質にも被害が及ぶ可能性があることからね今回の大規模な抗議デモにつながりました。

もうすぐ2年を迎える戦闘でイスラエルは国際社会で孤立し、パレスチナ自治区の大半は廃墟と化しました。ネタニヤフ政権は今月、ガザ市制圧とハマスせん滅を目指した攻撃を軍に命じました。

現時点で戦車などの地上部隊展開は確認されていないが、計画されている作戦では不十分との不満がイスラエル治安閣議で聞かれました。同時に政府特使らは停戦と人質解放に向けた交渉を再開する構えで、ハマスに譲歩を迫っています。現時点でハマス側にそうした示唆は見られません。



ハマスは2023年10月7日の奇襲で多数のイスラエル人を殺害、人質に取りました。これを機に始まった戦争に対し、イスラエル国内では当初の揺るぎない支持はとうに消えています。世論調査ではハマスせん滅を待たずに人質50人を取り戻す合意を、国民の大半が望んでいます。生存しているとみられる人質20人は、処刑される危険に面しているほか、イスラエルとの交戦に巻き込まれるリスクがあります。

ネタニヤフ首相は17日、「ハマスを打ち倒さずに戦争を終わらせることを訴える人々は、ハマスの姿勢を硬化させるだけでなく、人質解放の可能性を低下させる」と非難。「さらには10月7日の恐怖が繰り返され、われわれの息子や娘たちが永遠の戦争で戦わなくてはならないように仕向ける行為だ」と続けました。

ハマス 60 日間停戦案同意か ガザ、イスラエル対応焦点

パレスチナ自治区ガザの停戦に関し、イスラム組織ハマスは18日、仲介国エジプトなどが提示した停戦案に同意したと表明しました。エジプトメディアによると、60日間の停戦と引き換えに10人の人質を解放する内容。イスラエルの対応が焦点となります。

一方、イスラエルのネタニヤフ首相は戦闘終結にはハマスの武装解除や人質全員の解放、ガザの非軍事化が必要だとしています。ハマスが全てを受け入れる可能性は低いとみられ、中断している停戦交渉の再開につながるかどうかは見通せません。

参政党を斬る 9

「終戦 80 年談話」 「戦争の反省」なし、大きな間違いも

参政党は2025年8月15日、公式サイトなどで「終戦 80 年談話」を発表した。しかし、事実関係に致命的な誤りを発見され、SNS では総ツッコミを受ける事態となっている。「自民党が、結党以来初めて衆参両院で過半数を割りました」との部分。

参政党は終戦の日に、国会議員や地方議員ら88人で靖国神社を集団参拝。神谷宗幣代表は報道陣の取材に「国のために、みんなを守るために戦っていただいた、そして尊い命が失われたという方々に本当に感謝と追悼の気持ちをお伝えしたい」と語った。さらに自身のX（旧 Twitter）では、党が発表した「終戦 80 年談話」を紹介した。

その談話。

我が国は、いま大東亜戦争終結から80年という、大きな節目を迎えています。

遡れば戊辰ぼしん戦争から157年。

不平等条約の改正を求め、脱亜入欧の旗のもと、西洋列強の帝国主義の掟おきてに合わせて軍事を競い抜いた77年の歩みは、大東亜戦争の敗戦によって幕を閉じました。その中で行われた幾多の戦いにおいて、祖国と家族を護るため、尊き命を捧げ、散華された英霊の御霊に対し、私たちは心から哀悼と感謝の誠を捧げます。

（略）

この節目の年、参議院議員選挙が行われ、長らく戦後日本の政治を牽引してきた自民党が、結党以来初めて衆参両院で過半数を割りました。

（以下略）

この後、「その一方で、日本人ファーム」等とながながと参院選で参政党が前進したことを記述している。

問題は、戦後 80 年を迎えた今年について「この節目の年、参議院議員選挙が行われ、長らく戦後日本の政治を牽引してきた自民党が、結党以来初めて衆参両院で過半数を割りました」と 7 月の参院選に言及した。誤りである。

1993 年の衆院選では定員 511 に対し、自民党は 223 議席と過半数に届かなかった。その前年の参院選で自民党は、定員 252 に対して 107 議席だったため、衆参ともに自民党が過半数を割り込む状態となった。さらに、2007 年の参院選、2009 年の衆院選と自民党は大敗を喫し、再び衆参で過半数を割り込む状態になった。

談話は、戦前に日本が行った中国や東南アジア諸国への侵略や朝鮮半島の植民地化には触れていません。X では「衆参両院で過半数割ったって別に初めてじゃなくね?」「たった 16 年前の事です正しい歴史認識を持ってない人たち」と、呆れたような反応が相次ぐ。

また、「戦争を起こした当時の権力者の責任には一言も触れていない。つまり先の戦争の反省はない」「書いてあるのは自分の党の宣伝ばかり」等の意見が見られる。

そして、談話では、冒頭で戦争に触れてはいるものの党の主張が色濃い。石破茂首相が全国戦没者追悼式で述べたような「戦争の反省と教訓」は、書かれていない。

「一見もっともらしいが事実をねじ曲げて貼り付けたペテンの説明」と、談話を手厳しく批評も報じられている。

各地のとくくみ

仙台 「ふたたび戦争を繰り返させない集い」を開催、その後デモ行進

終戦記念日の 15 日、仙台市で「ふたたび戦争を繰り返させない集い」が開かれました。参加した 92 人の市民は集会後、真夏の日差しのなか一番町商店街などをデモ行進し、「軍事より、子育て・教育に税金を使え」「外交で平和を守ろう」「核兵器を世界からなくそう」と訴えました。

集会では、富樫昌良常任世話人が参院選での排外主義勢力の台頭に触れ、「どんなことがあっても、戦争だけは起こさせてはならないと決意を新たにしたい」とあいさつしました。

宇部雄介弁護士が講演し、米軍と一体になって核戦争の準備をすすめる自衛隊の実態を、具体的な法律や軍備を示して批判。憲法 9 条が、原爆の経験を経て戦争放棄だけでなく戦力の不保持と交戦権の否定を規定したと指摘し、抑圧力論や核兵器依存は日本国憲法と相いれず、日本は非戦の国際世論を先導すべきだと強調しました。

講演後の意見交換では、核兵器禁止条約の締約国会議に参加した女性が、「世界は核兵器廃絶に向けて前進し、そこにたくさんの若者が参加している」と紹介しました。

埼玉・入間 9 条は反省と決意 女性ら

埼玉県入間市で 9 日、「女の平和 IN いるま 8・9 レッドアクション」が行われました。猛暑の中、75 人が参加し、「戦争法成立から 10 年 敵基地攻撃は違法」「戦争準備より平和の準備」「だれの子どもも殺させない」とアピールしました。

主催者あいさつ、埼玉土建入間支部主婦の会の木本真歩会長は、「戦争ったら、島国の日本に逃げ場はない。エネルギー自給率も低く、凍死や餓死してしまう可能性がある」と指摘。「他国と戦闘機を共同開発のでなく、平和に対話をしてほしい」と訴えました。

6 人がリレートークし、「ガザの虐殺は許さない」「平和と福祉、自由と平等を支える市民活動を守ろう」「自衛隊のブルーインパルス曲芸と観覧のための学校施設使用撤回を」等の発言がありました。

日本共産党、佐藤匠、田山雅子の両市議が参加。田山氏は「憲法 9 条は、戦争を起こしたを反省し、二度と過ちはすまいという決意とに掲げてきた誓いです。この誓いを手放さず、暴力も差別もない、一人りが個人として尊重する平和な社会を、ともにつくりましょう」と呼びかけました。

参加者は核廃絶の思いを込め、全員で「青い空は」を合唱しました。